

花きく4枚貼りの船便、他

永吉 秀夫



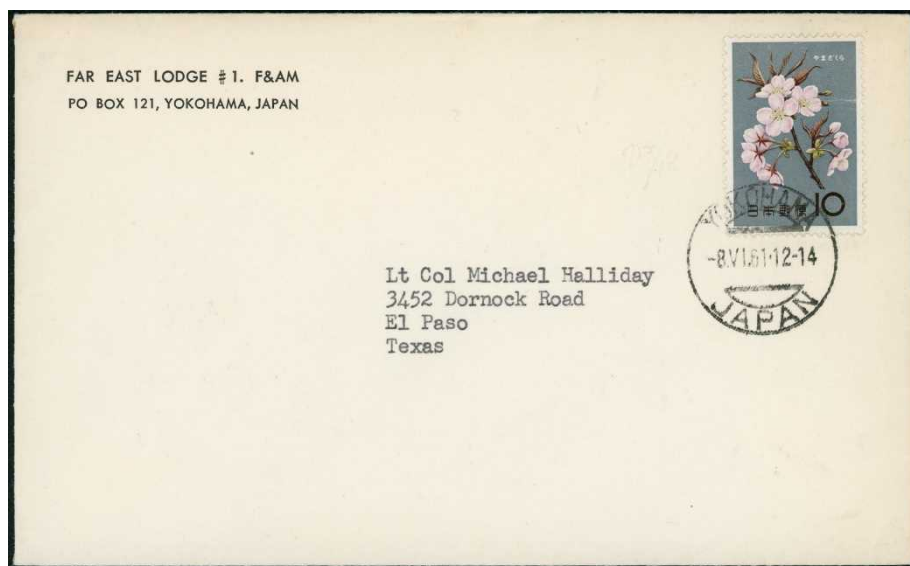
きく4枚貼り船便書状 TOKYO 1961.11.11 → 米国

会報279号に載せた「うめ3枚貼り」と対になる外信船便カバーです。1961年に発行された「花シリーズ」は毎月1種ずつ全12種の切手が発行されましたが、その発行中の1961年10月1日に国際郵便料金が全面的に改訂され、船便書状料金が30円から40円に引き上げられました。279号の船便は料金改訂前の3月1日差し立てで、前日発行の「うめ」が3枚貼られました。それに対して今回の船便は11月11日の差し立てで、直近発行の「きく」が4枚貼られました。もちろんこの40円料金に対して、料金改訂前の1~9月発行分を使うこともできましたが、料金改訂後に差し立てた郵便物に料金改訂後に発行された切手を使っている点が嬉しくなります。これらの料金には10円未満の端数がついていなかったため、どちらも「花のみ」が貼られたスッキリした姿をしています。

前回紹介品と同じく小型封筒を使っているのも嬉しい点です。2枚のカバーをポストークサイズのリーフに縦並びで貼り、無理なく料金の違いを表現することができます。右のような美しいリーフに仕上げることができました。



ついでなので、同じ花シリーズ「だけ」を貼った外信船便のカバーを2点披露しておきましょう。
1点目は「やまざくら」1枚貼りの印刷物便です。印刷物の表示がないのがちょっと残念ですが、この年の9月までは1枚貼りでこういう用途がありました。



やまざくら1枚貼り船便印刷物 YOKOHAMA 1961.6.8 → 米国

2点目は「すいせん」5枚貼りの2倍重量便。東京中央郵便局切手普及課差し立ての初日カバーとなっています。9月まではこういう貼り方ができましたが、10月以降は2倍重量便料金が65円となり、「花のみ貼り」では構成できなくなりました。



すいせん5枚貼り2倍重量船便書状 TOKYO 1961.1.30(発行初日) → 米国